

公表

(児童発達支援・放課後等デイサービス) 事業所における自己評価結果

事業所名		こども発達支援センターにじいろ		公表日 2026年 2月 20日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	0	・活動内容によって場所を変えている。 ・十分な活動量の確保と気持ちの切り替えにつながられるようにしている。	・利用定員と部屋のスペースとの兼ね合いに留意し、安全安心で適切な活用を継続したい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	4	・基準人員に加え、加配人員を配置している。 ・利用する人数やこどもの状態等に合わせ、職員の配置する人数を工夫している。	・放デイは長期休業期間のみ利用する児童にも対応した、職員の配置人数の工夫を継続する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	9	・施設の構造状、入り口に段差がある部屋があるが、状況に応じてステップを設置している。 ・医務室を設置し、障害の特性に応じてリラックスできる環境を整えている。	・こどもや介助者にとって安全な環境整備を工夫する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	18	1	・毎日の清掃を欠かさず、清潔さが保たれるよう留意している。 ・活動内容に合わせて、部屋の使い方を工夫している。	・施設の老朽化に伴い修繕が必要な箇所があるため、優先順位の高いものから、順次修繕している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	2	・クールダウンできる部屋や仕切りの工夫をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	9	・児童発達支援と放デイのそれぞれで振り返りの時間を確保している。	・児童発達支援と放デイのそれぞれで取り組んでいるが、全職員での共通理解も必要である。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	3			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	8	・職員が意見等を言やすいような雰囲気づくりに努めている。	・職員の意見等を聞く機会を定期的に設定し、業務改善に反映していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	8	・外部評価は行っていないが、適宜、三木市障がい福祉課より指導助言を受け、業務改善を行っている。	・兵庫県福祉サービス第三者評価の自己評価票を用いた自己評価を行い、業務改善に努める。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	2	・事業所内外の研修に参加できている。	・外部研修は条件によって受講できる職員に限られるため、事業所内の研修内容を充実させるよう工夫していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16	2	・支援員と専門職が連携しながら、作成している。	・全職員で、共通理解を図っていく。 ・適切なプログラム作成と公表を充実させていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	16		・保護者と常に情報共有し、こどもや保護者のニーズを踏まえ、計画を立案し、実施している。		
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	1	・個別支援計画作成に向けて、モニタリングや個別支援会議に加えてケース会を開催し、具体的な支援を検討している。	・こどもの様子を多角的に捉えられるよう、ケース会の進め方を工夫し、質をより充実させていく。	
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16	2	・日々の活動との関係性を理解した上で、支援するように努めている。	・全職員が個別支援計画を意識して、活動に臨むよう話し合っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	6	・標準ツール(検査器具等)は使用していないが、事業所内のアセスメントシートを活用し、こどもの状況を確認している。	・事業所内のアセスメントシートの質を向上させる。	
	16	児童発達個別支援計画(放課後等デイサービス個別支援計画)には、児童発達支援(放課後等デイサービス)ガイドラインの「児童発達支援(放課後等デイサービス)の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16	1		・ガイドラインを参考にしながら、どの項目に何を記載するか、より一層の共通理解が必要である。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	2	・チームで取組むよう努力をしている。	・担当者のみが立案することにならないように工夫する。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	1	・プログラムの大きな流れの中で、個性や状況に応じた変化を入れる工夫をしている。	・意見を出し合って、内容は少しずつ変化するように工夫していく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	17	0			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	1		・前日に行う等工夫し、職員間で支援内容に相違が起らないよう努めていく。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	19	0	・時間を工夫し、当日中に振り返りを行っている。	・丁寧な振り返りに努める。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	1	・日々の活動を記録し、職員間で検証を行い、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0		
	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	13	1		
	25	【放デイのみ】子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14	0		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	0	・嘱託医と相談できる体制を整えている。 ・感染症サーベイランスを毎週、嘱託医から提供を受け情報共有している。	・関係機関の連携について、より充実を図っていく。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	11	3		・児童発達支援センターとして、地域の事業所との連携を充実させていく。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後等児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	11	5	・今年度、近隣の幼稚園と交流を行った。	・今後も取組を継続していき、より充実を図っていく。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19	0	・送迎時に直接保護者に伝え、連絡帳にも記載している。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17	0	・「わくわく子育てセミナー」として、ペアレント・トレーニングを実施している。	・託児等、ペアレント・トレーニングに参加しやすい工夫が必要である。
	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1	・インクルージョンの観点を踏まえて支援をしており、特別支援学校幼稚園部・園・保護者の意向を確認したうえで情報共有等を行っている。	・今後も、学校園、保護者の意向を確認し、ニーズに応じて連携していく。
	33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	・保護者及び学校の意向を確認し、必要に応じて「個別療育のまとめ」を作成して情報共有を行っている。	・今後も支援内容等の情報共有と相互理解を図っていく。
	34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	13	2	・自立支援協議会全体会及びこども部会に参加した。	・他の事業所と連携し、地域の課題を探り適切な取組を行っていく。
	35	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	16	1	・講師を招いて研修会を計画し、職員が積極的に参加できる環境にある。	
	36	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	1	・自立支援協議会こども部会の中の分科会に参加した。	・今後も、積極的に参加していく。
	37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14	0	・特別支援学校の行事予定は毎月把握しており、必要に応じて学校送迎バスとも連絡が取れる体制を整えている。	
	38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	5	・必要があれば共有している。	
	39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	11	1	・必要があれば共有している。	
40	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	2	・契約時や改正時には丁寧な説明を心がけている。		
	41	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16	0	・保護者と情報共有し、こどもや保護者のニーズを踏まえた計画を立案、実施するために、計画作成から6か月を超えない日程でモニタリングを行っている。	・こどもの年齢に応じて、意思確認やニーズを十分に聞き取ったり、子どもと保護者と相談したりする機会をつくっていく。
	42	個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	15	1	・十分に説明するよう努め、同意を得ている。	
	43	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17	1	・モニタリング以外でも、保護者のニーズに合わせて相談に応えている。	

保護者への説明等	44	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	3	・保護者同士で交流する機会（おしゃべり会）を設けている。	・今後はこどもの年齢に応じた保護者が集まる機会や、きょうだい同士が交流できる場を検討していく。
	45	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16	0		
	46	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	16	3	・「にじいろつうしん」を発行している。	・ホームページの充実（更新）を図り、活動概要や行事予定などを発信していく。
	47	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	18	1	・個人情報を含む書類は施錠可能なロッカー等で保管し、外部に持ち出さないことを全職員で徹底している。	・常に、意識は必要である。
	48	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	19	0	・日常は筆談等で伝達し、モニタリングでは手話通訳者に同席してもらっている。	
	49	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	12		・事業所の活動に、地域の方を招く等、地域交流の機会を検討していく。
	50	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17	1	・「安全・安心マニュアル」を作成し、保護者が閲覧できるよう玄関に常設している。また、年間計画により訓練も実施している。	・日々の関わりで具体的に伝えていくなど、周知方法を工夫する必要がある。
非常時等の対応	51	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	1	・避難経路の確認・避難訓練の実施を行っている。 ・利用者を含めた避難訓練を実施している。	・自然災害が実際に起こった場合には、避難用の車の確保など、法人との連携が必要である。
	52	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	18	0	・看護師が在籍しており、把握している。 ・連絡帳で毎回確認している。	・てんかん発作時の対応や緊急時の対応についても、ロールプレイを継続実施する。
	53	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	1	・食事の提供はしていない。 ・アレルギーについては、契約時や年度初めの基本情報の更新時に確認している。	
	54	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18	0	・安全点検を毎月一回行っている。	
	55	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	1	・契約時に「緊急時引き渡しカード」への記入を依頼し、年度初めには変更の有無を確認している。	
	56	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19	0	・ヒヤリハットの報告書を作成し、事故防止委員会で対処方法を確認、検討している。 ・内容については全体ミーティングで伝え、対応を情報共有している。	
	57	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19	0	・定期的に研修を実施している。	・今後も研修を継続的に実施していく。
	58	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	0	・身体拘束適正化委員会で身体拘束の実施について協議したうえで、保護者に説明し署名をいただいている。	・今後も組織的な決定と、身体拘束を行わない工夫などを継続して検討していく必要がある。